

米国・ユタ州ユタ大学 Woycechowsky 研究室訪問

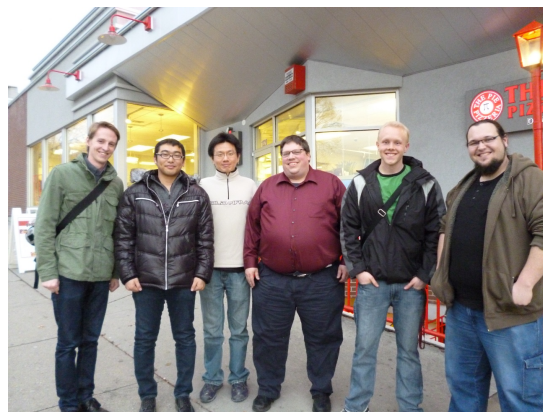
米国・ユタ州ソルトレイク 期間：平成 26 年 2 月 19 日～3 月 3 日（13 日間）

工学府 博士課程 1 年 田中貴大

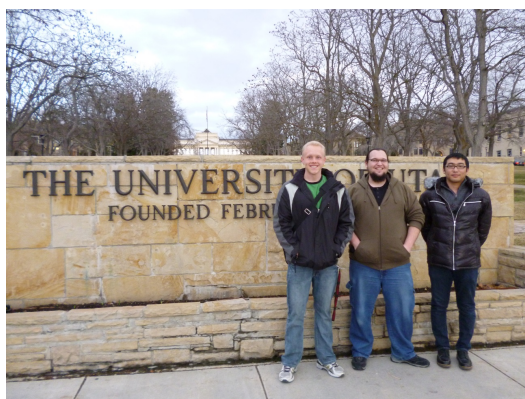
「九州大学 卓越した大学院拠点形成支援補助金「未来分子システム科学」における「国際研究助成（海外派遣）」の支援をいただき、平成 26 年 2 月 19 日から平成 26 年 3 月 3 日までの約二週間、私はユタ大学 Woycechowsky 研究室へ研究訪問しました。

ユタ大学は、米国ユタ州ソルトレイクシティの東の山裾に広大な敷地を持つ大学です。そのキャンパスの西端にある化学科に Woycechowsky 研究室があります。Woycechowsky 研では、自己集合により形成されるカゴ状のタンパク質複合体であるキャプシドを改変し、天然にはない機能を生み出す研究をしています。私の研究でも、RNA 酵素を用いて同様の方向性の研究を行っているため、近年報告された RNA を内包するキャプシドの報告に特に興味がありました。そのため、私はタンパク質取り扱い技術を学ぶと共に、この内容についてディスカッションするため、教授の研究室を訪問しました。研究室では、複数のキャプシド変異体を使った数種のタンパク質の精製法や分析等を学びました。また、訪問の目的の 1 つであった研究内容のみならず、研究室の各学生の研究内容についても議論を行いました。タンパク質の精製法は、理論だけでは知っているものが多く、実際の実験操作をすることは良い経験となりました。研究室の日常やミーティングでは、学生が教授を愛称で呼ぶなど、日本とは異なる教授と学生との距離の近さに驚きました。また、英語能力の不足を強く実感させられ、帰国後の英語学習に励む決意を新たにしました。

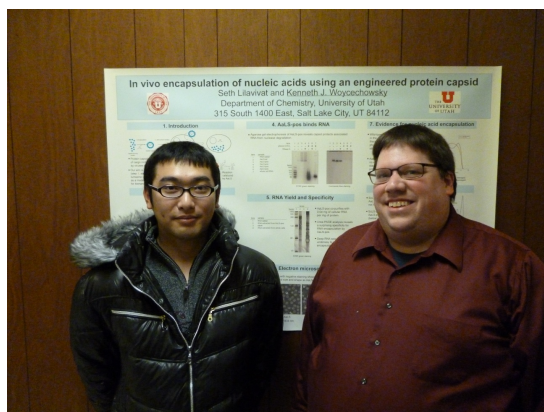
このように非常に短い期間でしたが、とても有意義な 2 週間となりました。今回、私の訪問を快く受け入れて下さった Woycechowsky 教授、指導や議論に付き合ってくれた研究室のメンバー、訪問までの手続き等で助言をいただいた古田先生、井川先生、石田先生に感謝申し上げます。最後に、この機会を与えてくださった卓越した大学院拠点形成支援補助金事業および卓越事務室のスタッフの方々に深く感謝申し上げます。



研究室のメンバー（ピザパーティをしたピザ屋をバックに）



実験で特にお世話になった研究室の 2 人



Woycechowsky 教授と私